動物レスキュー通信

2020年6月 第85号 （令和2年6月1日発行）

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月（しづく） ： 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級

お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

愛犬、愛猫の健康管理 意義・役割と方法

新型コロナウイルスの感染予防のためにできるだけ病院には足を運ばない、という方が増えているようです。どうしても具合が悪い時にはもちろん病院に行き、受診しますが、市販薬などで様子を見ることもあるでしょう。しかしそれは自分がどんな状態にあるのか、どれくらい辛いのかが自分でわかるから選択できること。ワンちゃん、ネコちゃんの場合は、飼い主さんとの間に共通言語がありませんので、今、どのような状態でどれくらい辛いのかということは、飼い主さんが気付いてあげる事が非常に重要です。そのためには日ごろからの健康管理がとても大切です。ワンちゃん、ネコちゃんが、日々を元気に暮らせるように健康管理をすることは、飼い主さんの義務です。

健康管理の意義と役割

ワンちゃん、ネコちゃんはたとえ体調が悪かったとしても、残念ながら飼い主さんに直接言葉で伝えることはできません。そして痛みに対して、人間よりも我慢強く、痛い、苦しいなどの感情を表に出すことはほとんどなく、隠そうとすることがよくあります。そのため、飼い主さんはワンちゃん、ネコちゃんの初期の体調不良に気付きにくいと言えます。わかりやすい不調が現れた時にはすでに病気が悪化していることも少なくありません。そのため、病気になるリスクを減らすためには、飼い主さんによるワンちゃん、ネコちゃんの健康管理が非常に重要なのです。日々、ワンちゃん、ネコちゃんと触れ合っている飼い主さんだからこそ、その変化に気づいてあげる事ができるのです。少しでも普段と違うことを感じたら、ためらわず動物病院での診察を受けることが大切です。なぜならば人間の寿命は女性約87歳、男性約81歳なのに対し、ワンちゃん約14歳、ネコちゃん約15歳と人の寿命の5分の1ほどしかないので、一日一日を大切にしてあげなくてはなりません。

健康管理の方法

では日ごろの健康管理はどのようにして行えばいいのでしょうか。ワンちゃん、ネコちゃんの不調のサインが現れる場所としては、しぐさ、表情、食欲、皮膚、毛艶、排せつ物などです。①食事量が減っていないか②ウンチ、おしっこの回数が増えすぎている、または減っていないか③ウンチ、おしっこの色やにおい、不審なものが混ざっていないか④排泄のしぐさに変化はないか⑤呼吸の仕方、歩き方、食べ方、寝方、毛づくろいのしぐさなど、普段との違いはないか⑥普段とは違う鳴き方をしていないか⑥目ヤニが異常に出ていないか⑦耳が汚れていないか⑧よだれを垂らしていないか⑨毛の艶が失われていないか⑩皮膚が乾燥したり、腫瘍ができていないか⑪けが抜けていないか⑫身体に触れたときに痛がっていないかなど、1日1回はブラッシングをしてあげるなどして、身体全体に触れながらチェックする習慣を持ってください。それから体温、体重、呼吸数、心拍数を記録するようにしましょう。これは毎日でなくても大丈夫ですが2週間に1回程度は測り、記録しておいてください。①体温　ワンちゃん、ネコちゃん共に直腸で体温を測ります。電子体温計の先にラップを巻き、オイルを塗って肛門に差し入れて計測します。ワンちゃん、ネコちゃん共に平熱は人間より高めの38～39度です。②体重　ワンちゃん、ネコちゃんをキャリーバッグに入れる、もしくは飼い主さんが抱きかかえて体重計に乗ります。その後キャリーバッグの重さ、もしくは飼い主さんの体重を差し引くと体重が導き出されます。③心拍数　ワンちゃん、ネコちゃんの胸元に手を当て心拍数を測ります。④呼吸数　ネコは1小型犬は1分間に15～35回、1分間に60～120回です。呼吸数を数えるには、吸う・吐く、を1回と数えます。呼吸数は1定し1分間に45～30回です。平均数は1呼吸で2～3秒です。これらを健康手帳に記録しておきましょう。健康手帳は無料でダウンロードできるものやスマートフォンアプリ、またお気に入りのものを有料で購入することもできます。飼い主さんの好みによって使い分けが可能です。その健康手帳を動物病院での受診の際に持参するとワンちゃん、ネコちゃんの体調の変化がわかりやすく、とても役に立ちます。

ワンちゃん、ネコちゃんと幸せな時間を少しでも長く過ごすには、日ごろからの飼い主さんの観察、スキンシップが非常に大切です。（詩月）